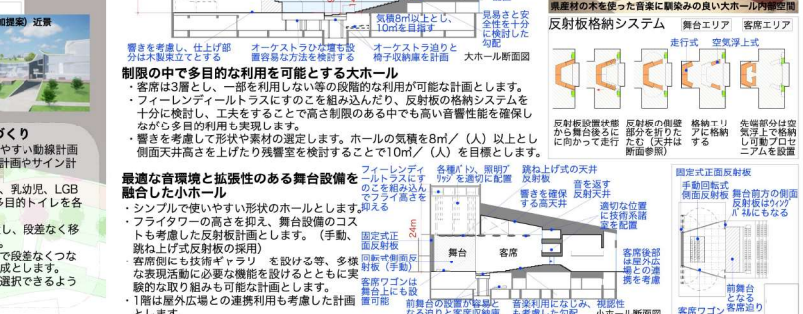
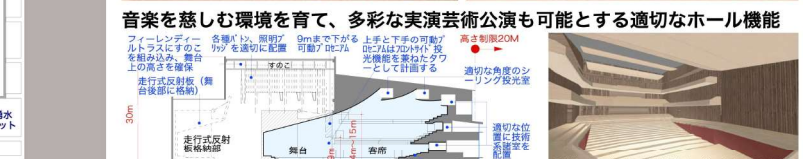
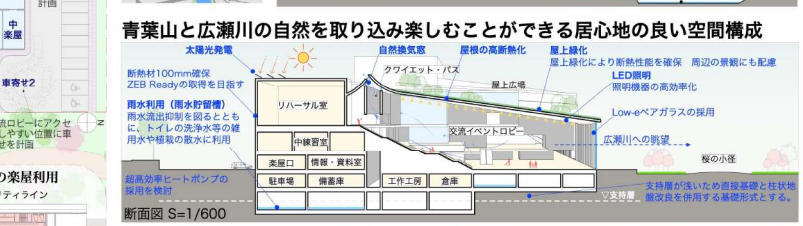
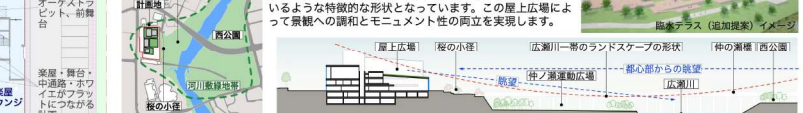
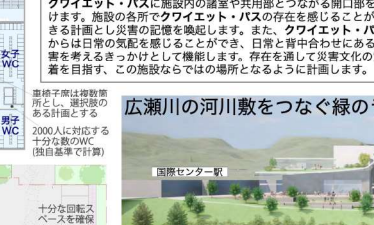
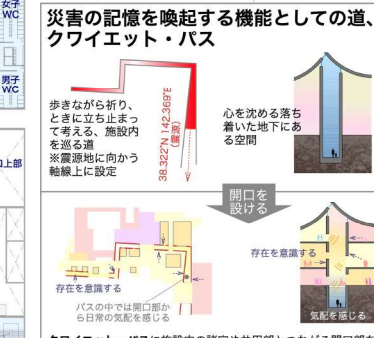
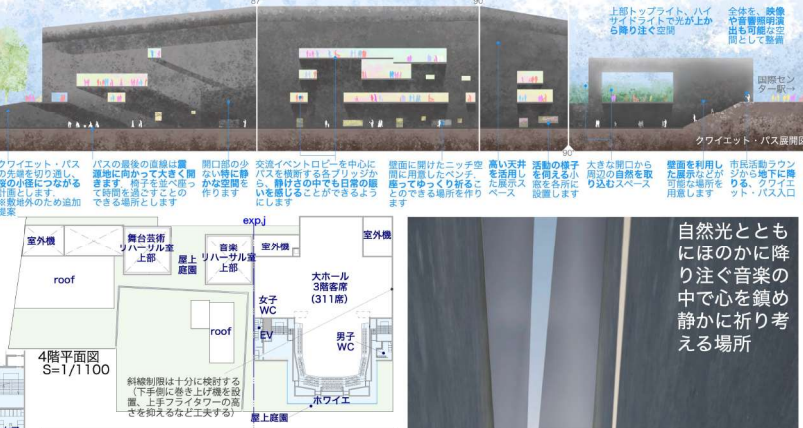
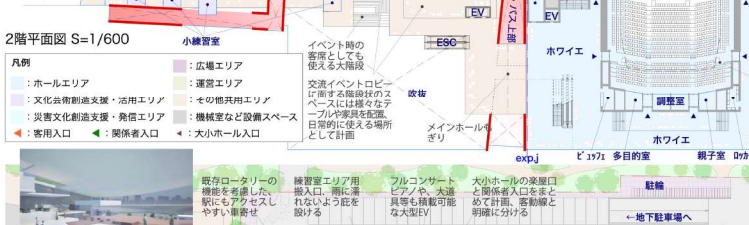
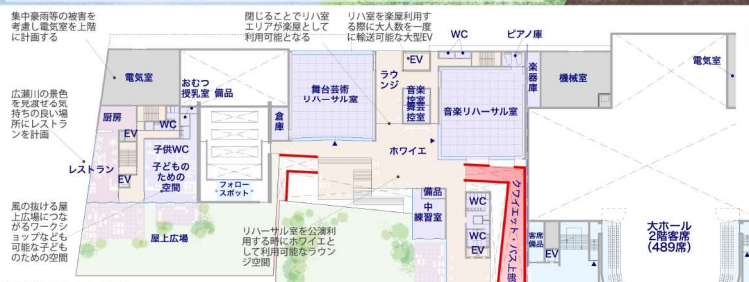


祈り、立ち止まり、考えるための道、 「クワイエット・パス」が日常やホールの活動と隣り合う

私たちは、本施設の中核的な機能として、中心部震災メモリアル拠点とクワイエット・パスの役割を融合した「クワイエット・パス」を提案します。クワイエット・パスは地下にあり建物全体を縦貫する道になっています。静かなこの道で、人々は歩きながら祈り、考え、思いを馳せることができ、同時に施設内での人の気配や賑わいを感じることもできる場所ともなっています。日常を感じながら災害を考える場所、またその逆に、この場に集う人々が日常の活動を行う中でその存在を感じ、災害の記憶を喚起する機能として、クワイエット・パスを計画します。



クワイエット・パスの最後は、広瀬川の河川敷をつなぐ緑のランドスケープへとつながります。自然光とともにほのかに降り注ぐ音楽の中で心を鎮め静かに祈り考える場所。